

石川県における水田を利用したブロッコリーの越冬作型 (3月収穫) の開発

1 背景・目的

県内のブロッコリーの主な作型は、6月収穫および10月から11月収穫であり、出荷が集中している。そこで、作期拡大のため、水稻の後作が可能な越冬作型に適した品種の選定、および選定品種の適する定植時期を検討する。

2 技術のポイント

- (1) 低温によるアントシアンが発現がなく、花蕾形状および収量性が優れる品種‘クリア’が有望である(表1)。
- (2) 品種‘クリア’を9月第6半旬から10月第2半旬にかけて定植することで、3月に収穫することが可能である(表2、2018年)。
- (3) 総収量は9月第6半旬定植が最も多く、9月第6半旬定植が最も適する(表2、2018年)。

表1 品種の違いが花蕾品質および収量に及ぼす影響

品種	花蕾形状指数 [※]	不整形花蕾指数 [※]	アントシアン	花蕾径	花蕾高	茎径	花蕾重
	1~4	1~4	0~3	(mm)	(mm)	(mm)	(g)
ともえ	2.4 b ^z	2.4 b	0.0 a	116 a	86 a	25 bc	234 b
すずか	1.6 a	2.3 b	0.0 a	92 b	67 c	30 ab	163 c
彩麟	2.2 ab	2.4 b	0.0 a	113 a	77 b	23 c	223 bc
クリア	1.6 a	1.8 a	0.0 a	121 a	86 a	31 a	306 a

^z tukeyの多重比較検定で、同一列において異なる英文字間に5%水準で有意差があることを示す

※花蕾形状指数：花蕾を横から見た形状 不整形花蕾指数：花蕾を上から見た形状

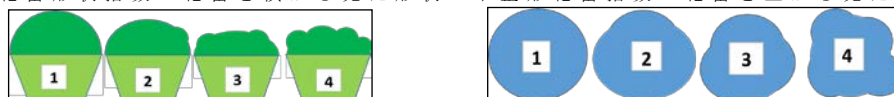


表2 定植日の違いが収穫期および収量に及ぼす影響

定植期	可販規格品収穫期			商品収量 ^z (kg/10a)
	始期	盛期	終期	
9月第6半旬	3月第3半旬	3月第5半旬	3月第5半旬	1,214 a ^y
10月第1半旬	3月第4半旬	3月第5半旬	3月第6半旬	985 b
10月第2半旬	3月第5半旬	3月第5半旬	3月第6半旬	823 b

^z 県内の平均的な栽植密度および収穫率をもとに換算した。

^y tukeyの多重比較検定で、同一列において異なる英文字間に5%水準で有意差があることを示す

3 成果の活用と留意点

- (1) 畝幅 150cm×株間 40cm、2条千鳥植えとする。
- (2) 施肥量は10aあたり成分量 N:29.6kg、P₂O₅:17.6kg、K₂O:28.8kgとする。

問合せ先：園芸栽培グループ TEL 076-257-6911
担当者：松野由莉・村濱稔